

水質自動測定局（湖心局）の除却工事の実施状況について

琵琶湖には、琵琶湖総合開発事業の一環として、北湖に2局（N局、S局）、南湖に1局の湖心局が順次設置され、琵琶湖の時々刻々とした変化の把握に活用してきた。

しかし、その後の施設・設備の老朽化や新たに追加された環境基準に自動測定で対応できない等のため平成18年度から休止していた。

今年度、「滋賀県公共施設等マネジメント基本方針」に基づき、地方債（公共施設等適正化推進事業債：充当率90%）を充当して除却することとしている。

【湖心局の概要】

	設置年	形式	設置場所	耐用年数(設計)
北湖N局	平成3年度	一点緊張係留ブイ方式	今津沖中央	20年
北湖S局	平成2年度	一点緊張係留ブイ方式	南比良沖中央	20年
南湖局	平成2年度	鋼管杭によるタワー方式	唐崎沖	—

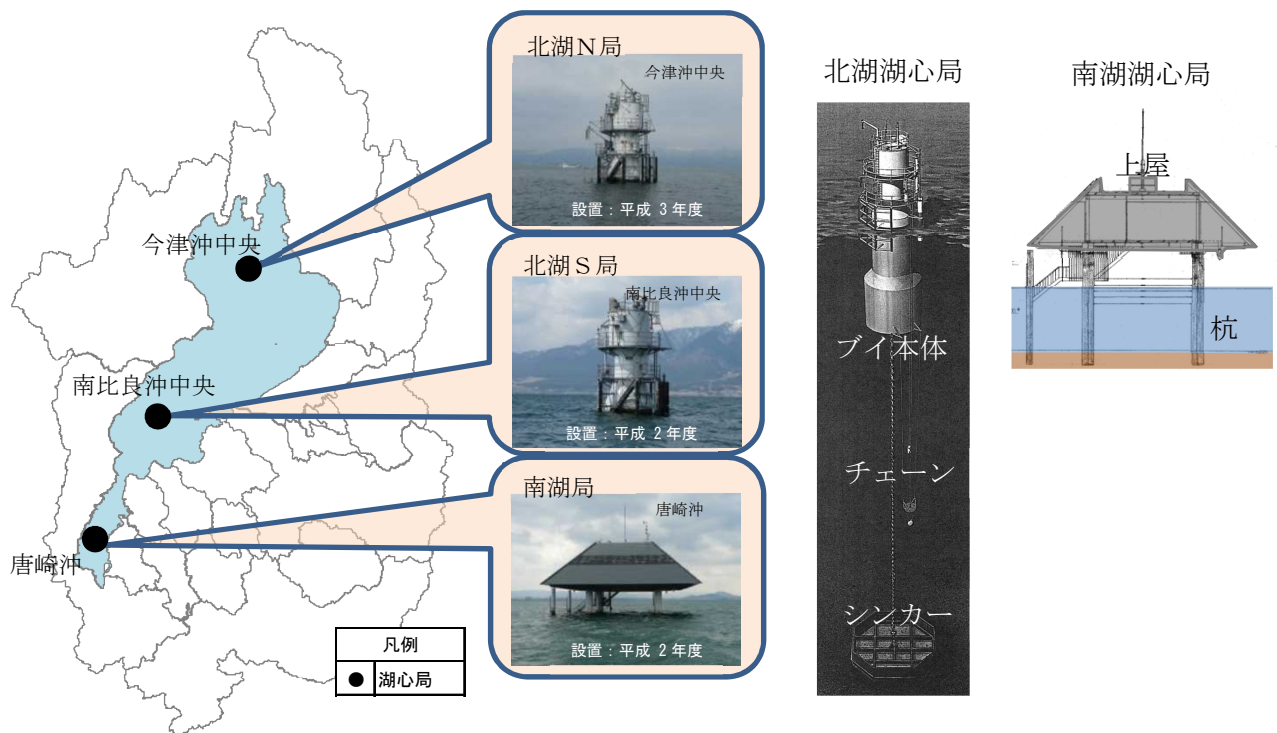


図. 湖心局の概要

1. 除却工事の概要

(1) 北湖湖心局（N局、S局）の除却

- 湖心局を係留するシンカー（250 t）を引き上げることが技術的に不可能であるため、水深約40mにおいて、チェーンを切断し、それより上のチェーンおよびブイ本体を除却する。

- 除却したブイおよびチェーンは、解体し、鉄くずとして売り払う。
- 残置するシンカーに対して、目印となるブイを設置し、除却による漁業への影響を生じないようにする。

(2) 南湖湖心局の除却

- 湖上で上屋の解体を進める。支柱となっている杭については、硬い岩盤に差し込まれており、これを抜き取ることが技術的に不可能であるため、湖底下約 10m で切断し、上部を抜取り除却する。
- 除却で発生した鉄くずは売り払う。
- 支柱の抜取り後は、湖底面をならす。

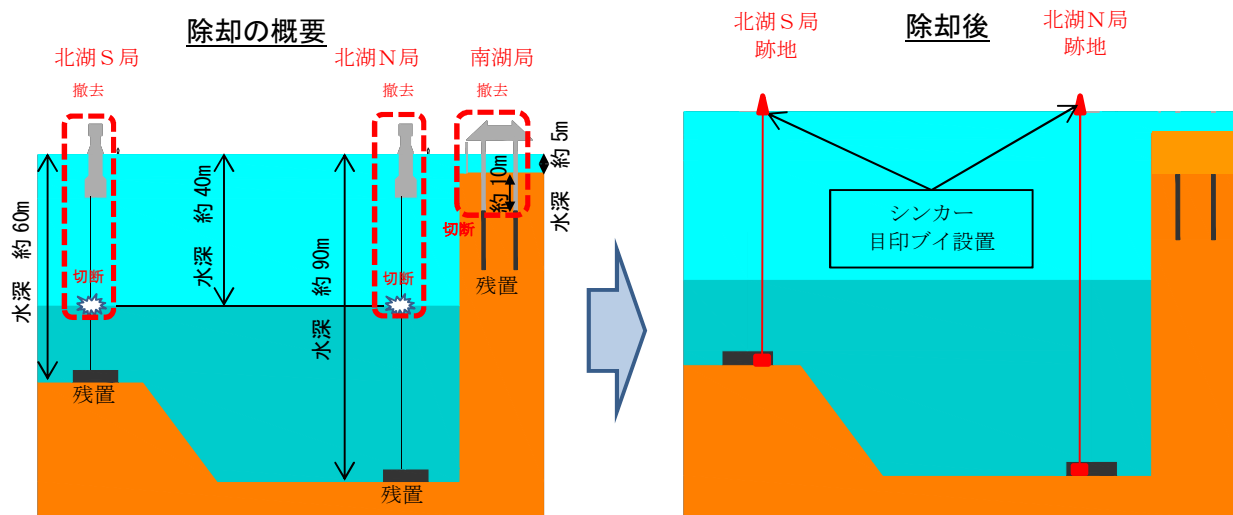


図. 湖心局除却工事のイメージ

2. 工事の現状と見通し

- 3局の除却に対して入札を行い、平成 30 年 12 月 25 日に契約。
- 現在、受注者により工事の関連事業者との調整および詳細工程の作成中。
- この調整において、作業安全面から使用する重機の規格の変更や、使用を想定する台船が他工事でも使用され、調整の時間が想定以上に要している状況。
- 南湖局の除却工事が 3 月下旬に開始予定。
- その後、北湖湖心局（N局、S局）の除却を順次着手する予定。

3. 今後の琵琶湖測定について

水質調査船「びわかぜ」を活用した水質の定期調査や研究、新たな課題への補足調査などの柔軟な対応により、琵琶湖の水環境を引き続き監視し、琵琶湖の保全再生の基礎となる知見の把握、蓄積に取り組んでいく。